

第4学年 算数科学習指導案
 日時：9月20日(金)第5校時
 授業者： (ぐんぐん)
 (じっくり)
 場所：少人数教室(ぐんぐん)
 4年3組教室(じっくり)

単元名	2けたでわるわり算
研究内容について	2 - 練習の時間を十分に確保し、学習内容の定着を図る。 3 - 既習用語を正しく使って、既習事項とつなげて話したり、説明したりできる。
本時のねらい	3位数÷2位数で、商が2位数になる場合の除法の筆算形式を理解し、計算できる。(ア)
人権教育の観点	これまで学んだわり算の筆算の学習をもとに、課題解決の方法を考えることで、確かな根拠に基づく科学的思考や判断力を育てる。(認識力)

時数	ぐんぐんコース	児童の実態	じっくりコース
9 14	<ul style="list-style-type: none"> 基本的な計算は得意とする子が多いが、自分の考えを他の人に手際よく説明できる子は少ない。また一部に被除数、除数を概数で見なし仮商を立てることに困難を感じる子がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> わり算の筆算の計算には慣れてきたが、異なるパターンの問題になると、商をどこに立てるかで迷ったり、商の見当が付けられなかったりする子がいる。 	
過程	<p>指導・援助</p> <p>学習活動</p> <p>1. 本時の問題を理解する。</p> <p style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">432 ÷ 18の筆算のしかたを考えよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> 前の学習と同じ、3けた÷2けたの計算だ。 答えが10より大きい。 商が十の位に立ちそうだ。 <p>2. 課題をつかむ。</p> <p style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">3けた÷2けたで商が2けたになる筆算のしかたを考えよう。</p> <p>3. 自分の考えをもつ。</p> <div style="display: flex; align-items: flex-start;"> <div style="margin-right: 20px;"> $\begin{array}{r} 18 \overline{) 432} \\ \underline{24} \\ 18 \overline{) 432} \\ \underline{36} \\ 72 \\ \underline{72} \\ 0 \end{array}$ </div> <div> <p>百の位の4の4 ÷ 18では、商が立たない。十の位で見て、43 ÷ 18なら商が立つ。十の位に2を立てる。18とかけて、36。引いて7。7はわる数18より小さいのでよい。2を下ろす。72 ÷ 18で4を立てる。18とかけて72。引いて0。だから商は24。</p> </div> </div> <p>18 × 24 = 432</p> <p>4. 全体交流をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> わられる数の上2けたの数とわる数を比べて、わる数が大きいと一の位に商がたち、小さいと十の位にたつ。 たてる かける ひく おろす <p>5. りんご問題に取り組む。</p> <ul style="list-style-type: none"> 342 ÷ 21 (あまりが出る場合) 870 ÷ 43 (商の末尾が0になる場合) <p>6. まとめをする。</p> <p style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">(3けた) ÷ (2けた)の計算でも、上の位から順番にわり進んでいけばよい。</p> <p>7. 練習問題を解く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ホップ(教師に見せる) ステップ ・ジャンプ ・補充問題(自分で答え合わせ) <p>8. 次時の予告をする。</p>	<p>時間</p> <p>学習活動</p> <p>1. 本時の問題を理解する。</p> <p style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">432 ÷ 18の筆算のしかたを考えましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> 百の位の4の4 ÷ 18では、商が立たないが、十の位の43の43 ÷ 18なら商がたつ。だから、十の位に商がたつ。 今までは商が1けただったが、2けたになりそうだ。 わる数を20とみて商の見当をつけると、およそ20になる。 <p>2. 課題をつかむ。</p> <p style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">(3けた) ÷ (2けた)で、商が2けたになるわり算の筆算のしかたを考えよう。</p> <p>3. 自分の考えをもつ。</p> <div style="text-align: center;"> $18 \overline{) 432} \rightarrow 18 \overline{) \begin{array}{r} 432 \\ 36 \\ 7 \end{array}} \rightarrow 18 \overline{) \begin{array}{r} 432 \\ 36 \\ 72 \end{array}} \rightarrow 18 \overline{) \begin{array}{r} 432 \\ 36 \\ 72 \\ 72 \\ 0 \end{array}}$ </div> <ul style="list-style-type: none"> 見当をつけた商の2を、十の位にたてる。 18と2をかける。積の36を43の下に書いて43から36をひく。 一の位の2をおろす。 72を18でわり、4をたてて計算すると、商は24となる。 <p>4. 全体交流をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> 商を十の位にたてても、たてる かける ひく おろすを繰り返しながら順に計算すればよい。 わられる数の上2けたの数とわる数を比べて、わる数が大きいと一の位に商がたち、小さいと十の位にたつ。 <p>5. りんご問題に取り組む。</p> <p>342 ÷ 21 (3けた) ÷ (2けた)の計算を2回行いあまりが出る。</p> <p>870 ÷ 43 商の一の位に0がたつ。</p> <p>6. まとめ</p> <p style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">(3けた) ÷ (2けた)の計算でも、上の位から順番にわり進んでいけばよい。</p> <p>7. 練習問題に取り組む。</p> <ul style="list-style-type: none"> ホップ(教師に見せる) ステップ ・ジャンプ ・補充問題(自分で答え合わせ) 	<p>指導・援助</p> <ul style="list-style-type: none"> 前時と同じ(3けた) ÷ (2けた)の計算であるが、百の位の数字から確認したり、商の見当をつけたりすることで、商が2けたになりそうなことに気付かせる。 これまでの筆算のやり方と同じように、たてる かける ひく おろすの順で計算できるようにする。 計算ができれば、やり方を説明できるように練習する。 つまづいている児童には、机間指導で個別に指導する。 掲示物や黒板を指し示しながら、既習用語を使って、順序よく説明できるようにする。 のような問題の場合、計算の続きを省略してよいことを確認する。 ホップ問題は教師が確認し、ステップ問題以降は、各自で取り組むことができるようにする。
	評価規準：【技能】3位数÷2位数で商が十の位からたつ除法の筆算ができる。		

小単元	時	本時のねらい	主な学習活動	評価規準
何十でわる計算	1	何十や何百何十を何十でわる除法の計算原理や方法を理解し、計算することができる。	1. 問題を理解する。 60まいのおり紙を1人に20まいずつ分けます。何人に分けられるでしょう。 2. 課題をつかむ。 $(何十) \div (何十)$ の答えの見つけ方を考えよう。 3. 自分なりの考えをもつ。 (じっくり) ・半具体物を利用して、10ずつ分け数える活動を取り入れながら、理解を深める。 ・図をかいて、10のまとまりをもとにして、 $6 \div 2$ で考える。 (ぐんぐん) ・図をかいて、10のまとまりをもとにして、 $6 \div 2$ で考える。 ・ $6 \div 2$ でできる根拠を明確にするよう個別に指導する。 4. 考えを交流し、深める。 5. 問題2を提示する。 $150 \div 30$ の計算のしかたを考えよう。 6. まとめる 何十でわる計算は、10をもとにして、わり算をすればよい。 7. 確かめる。 (じっくり) ・H、S、は確実に進める。 (ぐんぐん) ・H、S、Jができれば問題集 8. 振り返る。	< 関心・意欲・態度 > ・何十、何百何十÷何十の計算のしかたを進んで考えようとする < 数学的な考え方 > ・10をもとにして、何十、何百何十の計算のしかたを既習事項を用いて考えることができる。 3年かけ算の筆算上P38 10のまとまりをもとに計算を考える。 (イ)
	2	何百何十÷何十であまりの出る除法の計算の仕方を10をもとにして考え、あまりの大きさを求めることができる。	1. 問題を理解する 170まいの折り紙を1人に50まいずつ分けます。何人に分けられて、何まいあまるでしょう。 ・既習の学習との違いを考える。 2. 課題をつかむ $(何百何十) \div (何十)$ の答えとあまりの見つけ方を考えよう。 3. 自分なりの考えをもつ。 (じっくり) ・半具体物を利用して、10ずつ分け、あまりを考える活動をしなが、理解を深める。 ・図をかいて、10のまとまりをもとにして、 $17 \div 5$ を計算し、あまりがいくつになるか考える。 (ぐんぐん) ・図をかいて、10のまとまりをもとにして、 $17 \div 5$ を計算し、あまりがいくつになるか考える。 ・答えを導いた後たしかめ算をして答えを確かめ。 4. 考えを交流し、深める。 5. 問題2を提示する。 $90 \div 20$ 6. まとめる。 $(何百何十) \div (何十)$ の答えとあまりを見つけるには、10をもとにして、あまりの大きさを考えるとよい。 (じっくり) ・H、S、は確実に進める。 (ぐんぐん) ・H、S、J。できたら問題集 8. 振り返る。	< 数学的な考え方 > ・何百何十÷何十であまりの出る計算のしかたを既習事項を用いて考えることができる。 < 技能 > ・何百何十÷何十であまりのある計算ができる。 (イ) 4年わり算の筆算 ・たしかめ算のしかた。

小単元	時	本時のねらい	主 な 学 習 活 動	評 価 規 準
(2けた)÷(2けた)の筆算	3	2位数÷2位数で、割り切れる除法の計算の筆算形式を理解し、計算できる。	1. 問題を理解する 63まいのおり紙を1人に21まいずつ分けます。何人に分けられるでしょう。 2. 課題をつかむ (何十何)÷(何十何)の計算のしかたを考えよう。 3. 自分なりの考えをもつ。 (じっくり) (ぐんぐん) ・半具体物や図を利用して、10ずつ分け数える活動を取り入れながら、理解を深める。 ・21を20とみて商の見当をつける。 ・図や概算から商の見当をつけ、筆算の式から、どのように進めるとよいか考える。 4. 考えを交流し、深める。 ・教師の説明を聞き、筆算のやり方を理解する 5. 問題2を提示する。 84÷21を筆算で計算しよう。 6. まとめる。 わる数を何十と考えて、商の見当をつけて、筆算をする。筆算のやり方は、1けたでわったときと変わらない。 7. 確かめる。 (じっくり) (ぐんぐん) ・H、S、は確実に進める。 ・H、S、Jは進める。できたら問題集 8. 振り返る。	<知識・理解> ・2位数÷2位数の筆算形式がわかる。 <数学的な考え方> ・わる数を何十とみて、商の見当をつけて引いて考える。 (ア) 4年わり算の筆算 上P36 ・商の立つ位置を決める。 ・立てる、かける、、引く、おろすの順で進める。 ・あまりを確かめる
	4	2位数÷2位数で、あまりのある計算の筆算ができる。また除法の確かめができる。	1. 問題を理解する。 87÷21の筆算のしかたを考えましょう。 ・既習の問題との違いを考える。 2. 課題をつかむ 2けた÷2けたであまりのする筆算のやり方を考えよう。 3. 自分なりの考えを持つ。 (じっくり) (ぐんぐん) ・21を20とみて、商の見当をつける。 ・わる数×商+あまり=わられる数の式で答えの確かめができたことを確認する。 ・前時の学習をもとに筆算を進める。 ・答えの確かめも行う。 4. 考えを交流する。 ・がい数にして考えれば、商がたてやすくなる。 5. 問題2を提示する。 97÷23を筆算で計算しよう。 6. まとめる。 あまりが出る計算も、筆算のやり方は変わらない。 7. 確かめる。 (じっくり) (ぐんぐん) ・H、S、は確実に進める。 ・H、S、Jは進める。p117 8. 振り返る。	<技能> ・2位数÷2位数で、あまりのある計算を筆算でできる。 <知識・理解> ・2位数÷2位数で、答えの確かめのしかたが分かる。 (ア) 4年、がい数 上P57 四捨五入して、およその数にして計算する。 4年わり算の筆算 ・商の立つ位置を決める。 ・立てる、かける、、引く、おろすの順で進める。 ・あまりを確かめる

小単元	時	本時のねらい	主な学習活動	評価規準
	5	2位数÷2位数で仮商が過大商になる場合に仮商を修正して計算することができる。	<p>1. 問題を理解する。 $95 \div 34$の計算をしよう。</p> <p>2. 課題をつかむ。 ・商の見当を3とし、計算すると引けなくなることを確かめる。 ひき算ができないときの、筆算の進め方を考えよう。</p> <p>3. 自分なりの考えをもつ。 (じっくり) ・筆算の途中で引けなくなった場合どうしたらよいか考える。 ・商をひとつ小さくして、計算する。 ・商を小さくすると、わる数と商の積が小さくなることを確かめる。 (ぐんぐん) ・3とはちがう商を立てて、計算をし、たしかめ算で答えを確かめる。</p> <p>4. 考えを交流する。</p> <p>5. 問題2を提示する。 $89 \div 13$を筆算で計算しよう。</p> <p>6. まとめる 商が大きすぎるときは、商を小さくすればよい。</p> <p>7. 確かめる。 (じっくり) ・H、S、は確実に進める。 (ぐんぐん) ・H、S、Jは進める。p117</p> <p>8. 振り返る。</p>	<p><技能> ・2位数÷2位数で過大商を修正して、正しく計算することができる。 (ア)</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>4年わり算の筆算 ・商の立つ位置を決める。 立てる、かける、引く、おろすの順で進める。 ・あまりを確かめる</p> </div>
	6	2位数÷2位数で、仮商が過小商になる場合に、仮商を修正して計算することができる。	<p>1. 問題を理解する。 $85 \div 27$を筆算でしよう。 ・既習の問題との違いを考える。</p> <p>3. 課題をつかむ。 ・商に2を立てると、あまりが31になることを確かめる。 ・わる数よりあまりが大きくなってはいけない。 あまりがわる数より大きくなったときの筆算のしかたを考えよう。</p> <p>3. 自分なりの考えを持つ。 (じっくり) ・筆算の途中で引けなくなった場合どうしたらよいか考える。 ・商をひとつ小さくして、計算する。 ・商を小さくすると、あまりが小さくなったことを確認する。 (ぐんぐん) ・2とはちがう商を立てて、計算をし、答えを確かめる。説明のしかたを考える。</p> <p>4. 考えを交流し、深める。</p> <p>5. 問題2を提示する。 $94 \div 15$を筆算でしよう。</p> <p>6. める。 あまりが大きいときは、商を大きくしていけばよい。あまりがわる数より小さいか確かめる。</p> <p>7. 確かめる。 (じっくり) ・H、S、は確実に進める。 (ぐんぐん) ・H、S、Jは進める。p117</p> <p>8. 振り返る。</p>	<p><技能> ・2位数÷2位数で過小商を修正して、正しく計算することができる。 (ア)</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>4年わり算の筆算 ・商の立つ位置を決める。 ・立てる、かける、引く、おろすの順で進める。 あまりを確かめる</p> </div>

小単元	時	本時のねらい	主 な 学 習 活 動	評 価 規 準
練習1	7	2位数÷2位数の計算原理を理解し、計算が正しくできる。	1. 問題を理解する $2けた \div 2けた$ の問題をとこう。 2. 課題をつかむ 学習したことをいかして正しく問題をとこう。 3. 自分なりの考えをもつ (じっくり) (ぐんぐん) ・計算練習に多く取り組み、計算原理や筆算の仕方を確実にする。 ・文章題や作問に取り組む。 4. 考えを交流し、深める。 5. 振り返る。	<技能> ・2位数÷2位数の計算ができ、それを活用することができる。 (ア)
3けた÷2けたの筆算	8	3位数÷2位数で商が1位数になる場合の除法の計算形式を理解し、計算できる。	1. 問題を理解する。 543 まいのおり紙を1人に62まいずつ分けます。何人に分けられて、何まいあまるでしょう。 2. 課題をつかむ。 $3けた \div 2けた$ の筆算の仕方を考えよう。 3. 自分なりの考えをもつ。 (じっくり) (ぐんぐん) ・わる数を60とみて、商は何の位にたつか考える。 ・わる数を60とみて、商は何の位にたつか考える。 ・筆算の途中で引けなくなった場合、どうしたらいいか考える。 ・計算が終わったら、あまりを確かめたり、たしかめ算をしたりして正しく答えが出たか確かめる。 ・商を小さくすると、余りが除数より小さくなったことを確かめる。 ・過大商と過小商の修正の仕方を思い出して、計算に取り組む。 4. 考えを交流し、深める。 5. 問題2を提示する。 $341 \div 47$ を筆算でしよう。 6. まとめる。 $3けた \div 2けた$ の計算も今までと同じように計算すればよい。 7. 確かめる。 (じっくり) (ぐんぐん) ・H、S、は確実に進める。 ・H、S、Jは進める。 p117 8. 振り返る。	<関心・意欲・態度> ・3位数÷2位数で商が1位数になる筆算に意欲を持つ。 <技能> ・3位数÷2位数で商が1位数になる場合の筆算ができる。 (ア) <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin-top: 10px;"> 4年がい数 上P57 四捨五入して、およその数にする </div>

小単元	時	本時のねらい	主な学習活動	評価規準		
3けた÷2けたの筆算	9 本時	3位数÷2位数で、商が2位数になる場合の除法の筆算形式を理解し、計算できる。	<p>1. 問題を理解する。 $432 \div 18$の計算しよう。 ・十の位に商がたちそうだ。 ・商が2けたになるのかな。</p> <p>2. 課題をもつ。 3けた÷2けたで、商が2けたになる筆算のしかたを考えよう。</p> <p>3. 自分なりの考えをもつ。</p> <table border="0" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> (じっくり) ・商は何の位に立つか考える。 ・18を20と見て、商の見当をつける。 ・商をたてて計算する。 </td> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> (ぐんぐん) ・商は何の位に立つか考える。 ・商の見当をつけ、商をたてて計算する。 </td> </tr> </table> <p>4. 考えを交流する。 5. 問題2を提示する。 $342 \div 21$ $870 \div 43$</p> <p>6. まとめる。 3けた÷2けたの計算でも、上の位から順番にわり進んでいけばよい。</p> <p>7. 確かめる。 (じっくり) (ぐんぐん) ・H、は確実に進める。 ・H、Sは確実に進める。</p> <p>8. 振り返る</p>	(じっくり) ・商は何の位に立つか考える。 ・18を20と見て、商の見当をつける。 ・商をたてて計算する。	(ぐんぐん) ・商は何の位に立つか考える。 ・商の見当をつけ、商をたてて計算する。	<p><技能> ・3位数÷2位数で商が2位数になる場合の筆算ができる。 (ア)</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>4年わり算の筆算 上P47 商の立つ位置を決める。 ・立てる、かける、引く、おろすの順で進める。 ・あまりを確かめる</p> </div>
(じっくり) ・商は何の位に立つか考える。 ・18を20と見て、商の見当をつける。 ・商をたてて計算する。	(ぐんぐん) ・商は何の位に立つか考える。 ・商の見当をつけ、商をたてて計算する。					
大きな数のわり算の筆算	10	4位数÷2、3位数、3位数÷3位数の除法の筆算形式を理解し、計算できる	<p>1. 問題を理解する。 $1768 \div 34$の筆算のしかたを考えよう。 ・4けた÷2けたの筆算もこれまでの筆算のようにできるかな。</p> <p>2. 課題をもつ。 4けた÷2けたの筆算のしかたを考えよう。</p> <p>3. 自分の考えをもつ。 (じっくり) (ぐんぐん) ・商がどこに立つか確かめる。 ・商がどこに立つか考える。 ・これまでの筆算のしかたを思い出しながら進める。 ・これまでの筆算のしかたを思い出しながら進める。</p> <p>4. 考えを交流する。 5. 問題2を提示する。 次の式を筆算でしよう。 $6936 \div 68$ $1632 \div 136$ $3000 \div 365$</p> <p>6. まとめる。 4けた÷2けたの筆算も、上の位からわり進めればよい。</p> <p>7. 確かめる。 (じっくり) (ぐんぐん) ・Hは確実に進める。 ・H、Sは確実に進める。</p> <p>8. 振り返る。</p>	<p><技能> ・4位数÷2、3位数、3位数÷3位数の除法の筆算ができる。 (ア)</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>4年わり算の筆算 上P42 商の立つ位置を決める。 ・立てる、かける、引く、おろすの順で進める。 ・あまりを確かめる</p> </div>		

わり算のきまり	<p>11 除法では被除数・除数を同じ数でわってもかけても商は変わらないことを理解し、工夫して計算ができる。</p>	<p>1. 問題を理解する。 $600 \div 200$ の計算をしましょう。</p> <p>2. 課題をつかむ 工夫した計算のしかたを考えよう。</p> <p>3. 自分なりの考えをもつ。 (じっくり) $\cdot 100$ をもとにして、$6 \div 2$ と考えて計算する。 \cdot 各自の考え方とみさきとゆうきの考え方を比べる。</p> <p>(ぐんぐん) \cdot 自分なりに計算する方法を工夫する。</p> <p>4. 考えを交流する。</p> <p>5. 問題2を提示する。 にあてはまる数をかきましょう。 $\begin{array}{r} 6 \qquad \div 2 = 3 \\ \times 5 \qquad \times 5 \\ \hline \qquad \qquad \div = \end{array}$</p> <p>6. まとめる わり算ではわられる数とわる数に同じ数をかけても、わられる数とわる数を同じ数で割っても、商は変わらない。</p> <p>7. 確かめる。 (じっくり) \cdot 全体で確かめながら H、S、は確実に進める。 (ぐんぐん) \cdot H、S、J は進める。P118</p> <p>8. 振り返る</p>	<p>< 知識・理解 > \cdot 除法について成り立つ性質が分かる。 < 数学的な考え方 > \cdot わり算の性質を使って、より簡潔に処理できる式に変形しようとする。</p> <p>(イ)</p> <p>4年わり算上 P94 10 のまとまりをもとに計算を考える。</p>
	<p>12 除法に関して成り立つ性質を活用して計算を工夫したり、あまりの大きさを正しくとらえたりすることができる。</p>	<p>1. 問題を理解する。 $200 \div 25$ を工夫して計算しよう。</p> <p>2. 問題をつかむ。 わり算の性質を使って、簡単に計算する方法を考えよう。</p> <p>3. 自分なりの考えをもつ。 (じっくり) \cdot わられる数とわる数を5でわって考える。 \cdot わられる数とわる数に4をかけて考える。</p> <p>(ぐんぐん) \cdot わられる数とわる数を5でわって考える。 \cdot わられる数とわる数に4をかけて考える。</p> <p>4. 考えを交流する。</p> <p>5. 問題2を提示する。 $4800 \div 500$ の計算しよう。 $\cdot 100$ のいくつ分で考えることができそうだ。</p> <p>6. まとめをする。 わり算の性質を使えば、数を小さくしたり、区切りのよい数にしたりして、計算することができる。</p> <p>7. 確かめる。 (じっくり) \cdot H、S、は確実に進める。 (ぐんぐん) \cdot H、S、p118 は進める。</p> <p>8. 振り返る。</p>	<p>< 技能 > \cdot 除法に関してなりたつ性質を活用して計算を工夫したり、あまりの大きさを正しくとらえたりすることができる。</p> <p>(ア)</p> <p>3年かけ算の筆算上 P38 10 や 100 のまとまりをもとに計算を考える。</p>

練習2 きほんのたしかめ	13	・単元における基礎・基本を確実にし、発展的な問題に取り組み、数学的な考え方をより深めることができる。 <学習集団> 習熟度別	1. 問題を理解する	
	14		2けた÷2けた、2けた÷2けたの計算をしよう。 2. めあてをつかむ わり算の問題や筆算を正しくしよう。 3. 自分なりの考えをもつ (じっくり) ・3位数÷2位数のわり算の計算原理を考える。 ・3位数÷2位数の計算を筆算で行う練習をする。 ・除法が適用される簡単な場面での立式を行い、問題場面に適した計算をする。 (ぐんぐん) ・3位数÷2位数の計算を筆算で行う練習をする。 ・除法が適用される簡単な場面での立式を行い、問題場面に適した計算をする。 4. 考えを交流する 5. 振り返る	

時 (まとめの言葉)	ぐんぐんコース	じっくりコース	じっくりじっくり1 じっくりじっくり2
① 何十でわる計算は、10をもとにして、わり算をすればよい。	算数の練習 P 4 7 ポイント1 練習1 1～3	H教科書 P 9 3 ① $90 \div 30$ $240 \div 60$	H教師とともに、1問ずつ解く。 S, J 個人で取り組む。
		S教科書 P 9 3 ① $560 \div 80$ $300 \div 500$	
		J教科書 P 1 1 7 ① $80 \div 20$ $250 \div 50$ $420 \div 70$ $200 \div 40$	
② (何百何十) ÷ (何十) の答えとあまりを見つけるには、10をもとにして、あまりの大きさを考えるとよい。	算数の練習 P 4 7 ポイント2 練習1 4～6	H教科書 P 9 4 ② $90 \div 20$ $190 \div 40$	H教師とともに、1問ずつ解く。 S 個人で取り組む。 (J 個人で取り組む。)
		S教科書 ② $80 \div 30$ $390 \div 70$ $500 \div 80$ $450 \div 70$	
		J教科書 P 1 1 7 $50 \div 20$ $70 \div 40$ $140 \div 30$ $390 \div 60$ $500 \div 70$	
③ わる数を何十と考へて、商の見当をつけて、筆算をすればよい。	算数の練習 P 4 8 ポイント 練習1 1～3	H教科書 P 9 6 ① $84 \div 21$	H教師とともに、1問ずつ解く。 S 個人で取り組む。
		S教科書 P 9 6 ① $39 \div 13$ $55 \div 11$ $48 \div 12$ $93 \div 31$ $88 \div 22$	
		J教科書 P 1 1 7 ① $46 \div 23$ $28 \div 14$ $77 \div 11$ $36 \div 12$ $42 \div 21$ $99 \div 33$	
④ (何十何) ÷ (何十何) の筆算は、わる数をがい数で考へ、商の見当をつけて計算すればよい。	P 1 1 7 ② 算数の練習 P 4 8 練習1 4～6 2	H教科書 P 9 6 ② $97 \div 23$	H教師とともに、1問ずつ解く。 S 個人で取り組む。 (J 個人で取り組む。)
		S教科書 P 9 6 ② $65 \div 31$ $98 \div 32$	
		J教科書 P 9 6 ② $93 \div 28$ $83 \div 19$ $61 \div 27$	
⑤ 見当をつけた商が大きすぎたときは、商を1つ小さくすればよい。	P 1 1 7 ④ 算数の練習 P 4 9 ポイント 練習1 1～3	H教科書 P 9 7 ④ $86 \div 24$ $95 \div 12$	HS 教師とともに、1問ずつ解く。
		S教科書 P 9 7 ④ $61 \div 31$ $96 \div 12$ $56 \div 14$	
		J教科書 P 9 7 ④ $88 \div 13$ $70 \div 14$ $81 \div 12$	
⑥ あまりがわる数よりも大きいときは、見当をつけた商が小さいので、商を大きくすればよい。	P 1 1 7 ⑤ 算数の練習 P 4 9	H教科書 P 9 8 ⑤ $97 \div 19$ $98 \div 16$	H教師とともに、1問ずつ解く。 S 個人で取り組む。
		S教科書 P 9 8 ⑤ $89 \div 28$ $72 \div 18$ $87 \div 29$	
		J教科書 P 9 8 ⑤ $79 \div 15$ $96 \div 16$ $75 \div 15$	

7 練習	教科書 P 9 9 教科書 P 1 1 7 8.わり算	教科書 P 9 9	教科書 P 9 9 教師とともに、1問ずつ解く。
8 (3けた)÷(2けた)の計算でも、今までと同じように計算すればよい。	P 1 1 7 ① 算数の練習 P 5 0 ポイント 練習 1 1~3 2	H 教科書 P 1 0 0 ① 647÷94 359÷87	H 教師とともに、1問ずつ解く。 S 個人で取り組む。
		S 教科書 P 1 0 0 ① 568÷73 197÷38	
		J 教科書 P 1 0 0 ① 108÷12 228÷76	
9 (3けた)÷(2けた)で商が2けたの場合でも、上の位から順にわり進んでいけばよい。	P 1 1 7 ② 算数の練習 P 5 1 練習 1 1,6, 10	H 教科書 P 1 0 1 ② 558÷26 673÷42 370÷12	H 教師とともに、1問ずつ解く。
		S 教科書 P 1 0 1 ② 486÷13 928÷29 782÷34	
		J P 1 1 7 ② 594÷28 437÷12 814÷37	
10 (4けた)÷(2けた)の筆算も、上の位からわり進めればよい。	P 1 1 8 ①	H 教科書 P 1 0 2 ① 1344÷48 7622÷37 875÷125 9282÷714 1400÷275	H 教師とともに、1問ずつ解く。
	算数の練習 P 5 2 練習 1	S 教科書 P 1 0 2 ① 6893÷82 4749÷23 810÷267 9938÷385	
11 わり算では、わられる数とわる数に同じ数をかけても、わられる数とわる数を同じ数でわっても、商は変わらない。	教科書 P 1 1 8 ①	H 教科書 P 1 0 3 ① 800÷400	HS 教師とともに、1問ずつ解く。
		S 教科書 P 1 0 3 ① 9000÷3000 2800÷700	
		② 1本300円の花を买います。6000円では、何本買えるでしょう。	
12 わり算の性質を使えば、数を小さくしたり、区切りのよい数にしたりして、計算することができる。	P 1 1 7 ③	H 教科書 P 1 0 4 ③ 150÷25 ④ 3600÷800	H 教師とともに、1問ずつ解く。
	算数の練習 P 5 3 練習 1	S 教科書 P 1 0 4 ③ 7000÷250 3000÷150 ④ 29000÷6000 47500÷900	
13 練習	教科書 P 1 0 5 算数の練習 P 5 4 ~	教科書 P 1 0 5	教科書 P 1 0 5 教師とともに、1問ずつ解く。
14 きほんのたしかめ	教科書 P 1 0 6 算数の練習 P 5 4 ~	教科書 P 1 0 6	教科書 P 1 0 6 教師とともに、1問ずつ解く。